



# 校長室だより

令和6年度

1月16日

NO. 41

## 新春の秦梨！ 思い新たに、伝統 受け継がれる



全力で手を伸ばして、札をつかみとれ



新春校内書き初め大会  
新年の思いを込めて書にしたためる



秦梨小恒例「かるた取り大会」  
秦梨に思いを込めて……



「春の海」の琴の音が流れる中、子供たちは静かに書き初め用紙に向かいます。この日のために、冬休み、一生懸命練習してきた子は、筆先にまでその集中力を注ぎ込みます。納得がいかにずい何度も書き直す子、一文字に時間をかけて書く子、さっと書き上げる子、子供の書く姿は様々ですが、その字もまた様々で、子供自身を映します。書き初めの起源は平安時代の「吉書の奏」と言われませんが、江戸時代には庶民も書き初めをしたそうです。ここでは、字の上達を願い、一年の抱負を心新たにしたいためとも言われます。六年生の教室には今年の抱負が書かれたものもあり、新年に込める思いは、今の子供たちにもつながるものがあります。

日本には、こうした伝統的な事柄が数多く残ります。日本の文化を大事にしている証拠とも言えます。「かるた取り」も江戸時代から続く庶民の遊びです。現代も百人一首を用いた競技かるたは、まさに「畳の上の格闘技」と言われ、映画や漫画の題材にもなったりします。また、各地方や地域にも多くの「かるた」が存在します。そしてお正月には、全国各地の神社で、かるた取り大会が行われるところもあります。秦梨の歴史を残す「秦梨歌留多」を用いたかるた取り大会も、冬の、新年の風物詩です。

秦梨っ子の中には、毎年、楽しみにしている子もおり、高学年の子の中には、多くの札を覚えていた子もいることでしょう。そしてその札に描かれる中身を知ることが、まさに「ふるさと学習」と言えます。「かるた取り」の行事と共に、私たちの学校や地域に興味や愛着をもつ、そんなひと時になったのではないかと思います。

こうした新年の行事には、「新春」に、気持ち新たに、一年を始めようとする人々の思いが込められています。様々な思いをもつて一年を歩き始めた秦梨っ子の背中を、今年も全力で押ししていきたいと思えます。ご支援、ご協力よろしくお願いいたします。

○18日、19日は市の書き初め展が、岡崎市美術館で行われます。市の伝統行事です。各学年の代表の子の作品が展示されています。よろしかったら、ご覧になっていただけたらと思います。

○15日の校内書き初め展、かるた取り大会のご観覧、ありがとうございました。